

介護
チーム

「支える人を支える」

期間

4/28～5/6(9日間)

5/5～5/13(9日間)

5/31～6/8(9日間)

6/18～6/24(7日間)

6/25～7/1(7日間)

東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県陸前高田市と大槌町にある老人福祉施設を支援するため、全国の赤十字福祉施設から職員を派遣しています。

特別養護老人ホーム彩華園からも職員が支援に入りました。以下はその手記です。

私が支援に入った陸前高田市の高齢者福祉施設では、震災から50日が経った現在でも、ぎりぎりの対応を迫られていました。水道は復旧しておらず、避難施設も兼ねている為スペースが無く、ベッドから起きることもままならない状態。入所者、施設職員すべての人が被災者であり、家族や家を亡くされた方も大勢いました。

私と同世代の職員さんは「この震災で両親と家を亡くした。それでも、みんながいるこの場所があるから今生きていられるんです」と話してくれました。言葉には強い気持ちが込められており、自分とほぼ同じ年の人がここまでの決意を持って生きている。聴いていて涙が出ました。

言葉を失ってしまうような、悲惨な状況の中でも先を見据えて努力している人がいる。「どのような形であれ、力にならせて欲しい」と強く思わされた9日間の経験でした。

介護福祉士(渡部浩和)35才



津波で被災した大槌町



陸前高田市の施設にて



東日本大震災

埼玉県支部活動報告

3月11日(金)の東日本大震災の発生後、直ちに災害対策本部を設置し、被災地に救護班等の派遣を行いました。

(1) 救護班の活動

各赤十字病院の医療救護班が迅速に被災地に駆けつけました。

さいたま赤十字病院	8班48名
小川赤十字病院	6班35名
深谷赤十字病院	8班53名

(2) 物資搬送

平時から備蓄している毛布を白石市役所、利府町役場、加須市役所に合計2,310枚届けました。

(3) 支援要員(県内赤十字施設・ボランティア 105名)

被災地の支部支援要員として事務職員を、被災病院等支援要員として医師・看護師・薬剤師・介護(福祉)士・事務職員を派遣しています。また、被災地の看護専門学校へも専任教師を派遣しています。

(4) こころのケア要員(県内赤十字施設 36名)

今後の生活への不安や避難所生活のための心身の疲労やストレスへの対応が必要となっており、こころのケア要員を派遣しています。